

／ 地域の力を学校に ／

学校と地域が協力して 教育活動の充実を図りましょう

「学校支援センター」の更なる充実を!

群馬県教育委員会では、平成16年度から、地域の教育力を有効に活用し、学校の教育活動の充実をめざして、地域の方々が学校の諸活動に協力するための拠点となる「学校支援センター」を設置するとともに、その運営推進に努めてきました。その結果、県内の市町村立小・中・特別支援学校のすべてにおいて学校支援センターが設置され、地域の方々の協力を得て、学校の教育活動の充実が図られています。



文部科学省においても、平成20年度から、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することを目的に「学校支援地域本部事業」を開始し、県内では、前橋市、高崎市、中之条町、沼田市が推進地域として、効果的な学校支援の在り方について研究を進めてきました。現在、各推進地域では、コーディネーターが学校と地域とを効果的に結び付ける役割を担いながら、様々な特色ある活動を創り出しています。

本リーフレットでは、コーディネーターが力を発揮できるようにするための工夫や、多くの学校がボランティアの方に協力をいただき効果を上げている活動をまとめるとともに、4つの推進地域における取組の中から、新しい教育内容の充実に向けた参考となる事例を紹介しています。

各学校においては、推進地域の取組などを参考にし、コーディネーターの位置付けに努めるとともに、ボランティアの方に協力をいただく活動を一層工夫しながら、学校支援センターの充実に努めましょう。

コーディネーターが力を発揮できるよう、工夫に努めましょう！

学校支援ボランティア活動がより充実していくためには、コーディネーターが各学校に位置付き、学校との連携のもと、コーディネーターによって学校支援センターが運営されていくようにしていくことが重要です。

コーディネーター

- 学校とボランティア、あるいはボランティア間の連絡調整などを行い、学校支援センターの運営を行います。
- コーディネーターは、子どもたちや学校の状況、ニーズを把握する必要があり、学校のよき理解者であるとともに、地域に精通している方が適しています。具体的には、
 - ・学校支援ボランティア活動のリーダーとして参加し、幅広い人的ネットワークをもっている方
 - ・PTA等の役員の経験者
 - ・区長（自治会長）や子ども会育成会等の役員の経験者
 - ・地域の様々な組織の役員等が考えられます。
- 学校の実情により、複数のコーディネーターやボランティアリーダーが協力して担うことも考えられます。
- コーディネーターとしてお願いする方の時間的な制約についても確認する必要があります。



群馬県では、現在約3割の学校がコーディネーターを位置付け、学校支援センターの運営を行っています。コーディネーターが位置付いている学校は、次のような方法でコーディネーターを探し、位置付けています。

<コーディネーターを探し、位置付けた主な方法>

- ・PTAへの働きかけ（47%）
- ・区長会や育成会など地域組織への働きかけ（34%）
- ・保護者や地域への広報（34%）

コーディネーターが力を発揮できるようにするために

- コーディネーターをお願いする際に、その趣旨や学校からの要望等をしっかりと伝え、共通理解を図れるようにしましょう。
- 教育活動の全体計画や年間指導計画、学校要覧（案内）やボランティア活動に必要な資料等を積極的に提供し、コーディネーターが見通しをもって運営に当たれるようにしましょう。
- コーディネーターと学校関係者との定期的な打合せの場を設けるようにしましょう。
- コーディネーターが自主的な活動を行えるよう、コーディネーターの役割を明確にしましょう。



【A小学校の例】

教頭	学校側窓口、方向性の提示、コーディネーター・ボランティアリーダーの選出、連携担当職員・コーディネーターへの指示、学校通信による働きかけ など
連携担当職員	運営計画の作成、職員・コーディネーターへ計画の提示、コーディネーターやボランティアとの情報交換 など
コーディネーター	ボランティアの募集、登録名簿の作成、ボランティアリーダーやボランティアと職員との調整・打合せ、ボランティアとの情報交換、活動の記録・まとめ、ホームページ用データの作成、学校支援センターの管理、通信の発行 など



子どもたちの教育に意欲と関心をもっていただくとともに、地域と学校とを結び付けることに喜びを感じられるよう、コーディネーターを支援しましょう！

参考資料（平成21年3月発行資料）
『地域とともに育つ学校づくりの推進』
※群馬県教育委員会 web ページに掲載
群馬県教育委員会 各課室発行・提供資料

検索

多くの学校が ボランティアの方に 協力していただいている活動の 更なる充実を！

「地域の教育力活用状況調査」の結果をみると、多くの小中学校でボランティアの方に協力をいただき、指導の効果を上げている共通した活動があります。以下に、それらの活動例を紹介します。

これらの活動については、今後もボランティアの方の協力を得ながら、各学校が一層の工夫を行い、活動の充実が図られるようにしていきましょう。

小学校

多くの学校がボランティアの方に協力していただいている活動

中学校

読み聞かせ・図書館整備 293校(87%)

地域の読み聞かせの会等の協力を得て行っています。図書館の整備等も協力していただいている学校もあり、子どもたちの読書に対する興味・関心が確実に高められています。



ミシン操作・調理実習 132校(75%)

専門的な技能が必要な活動では、ボランティアの方の協力が欠かせません。ミシンの操作や調整、調理実習の補助などにかかわる協力を得ることで、一人一人の子どもたちと向き合う時間も増え、子どもたちの学習状況に応じた適切な支援を行うことができます。



安全パトロール 258校(77%)

最も多くのボランティアの方に協力していただいている活動です。子どもたちが、登下校時に安全な通学ができるようPTAや区長会、育成会、老人会等様々な方に協力をいただいています。



部活指導 103校(59%)

専門的な指導を求める生徒や保護者のニーズに応えるとともに、教員の負担を軽減するうえで、外部の指導者の協力を得ることはたいへん有効です。その際、あくまでも顧問が運営の主体となるようにすることが大切であり、外部指導者との連携を密にしながら、各部の指導方針に基づいて指導が行われるように、共通理解を図る必要があります。



総合的な学習の時間 小学校279校(83%)・中学校89校(51%)

専門的な知識や技能、見識をもった方の協力を得ることで、子どもたちが質の高い探究活動を行うことができます。そのためには、人材や施設等に関するリストを作成して、校内で共有化するなど、日常的に協力を得られるような態勢を整備しておくことが大切です。また、授業のねらいを明確にして、教師とボランティアの役割分担を明確にしていくことも重要です。



「食育」や「農林業体験（職場体験学習）」の充実に向けて （前橋市立春日中学校の取組）

春日中学校では、実感・体験を大切にし、意図的・計画的に体験活動を学習活動に取り入れています。

【主な体験活動】

●食育

- ・大根やジャガイモ、里芋等の栽培
- ・稲刈り体験
- ・地元の食材を用いた調理実習
- ・給食残さい調査等

●職場体験学習

- ・共通体験…林業体験
- ・班別体験…農業体験



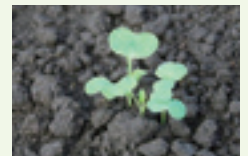
【コーディネーターの役割】

- 地域人材の発掘と学校への紹介
- 活動計画へのアドバイス・調整
- 実践記録の蓄積

【食育の取組】

●大根の栽培・収穫・調理

9月に蒔いた大根の種が2週間ほどで発芽し立派な双葉となる。すぐりや草むしりを何度か繰り返し、11月末にはおよそ600本の大根が実る。収穫した大根は調理実習の「すいとん」作りで使ったり、生徒が自宅に持ち帰ったり、お世話になった地域の方々へ配ったりする。さらに、南部共同調理場との連携で、春日中だけの追加メニューとして調理された「ふるふき大根」が給食に出されるほか、同調理場の提供する5校の給食の食材としても利用される。



郷土料理である「すいとん」の調理実習のときには、地域の方々にその栄養価の高いことを教えてもらいながら調理したり、いっしょに会食したりしながら、世代を超えた交流も図っている。



●ジャガイモの栽培・収穫・調理

ジャガイモの栽培は年度をまたいでしまうが、春日中では卒業する3年生が3月に種芋を植え、6月に全校生徒が収穫をする。この先輩からの贈り物が春日中のよき伝統となって後輩に引き継がれている。収穫されたメークインや男爵は、春日中限定献立として給食に提供される。

体験活動の実施に当たって、ボランティアの協力は授業を充実させる上でたいへん重要です。農業体験や林業体験を通じて、子どもたちは五感を通しての体験活動を行うことができました。コーディネーターの働きで、学校と地域とのつながりが強くなり、学校のねらいとしている学習にふさわしい様々な地域人材を紹介していただくことができました。

新しい教育内容の充実に向けて・・・ 地域と連携して活動を充実させましょう！

「職場体験学習」の充実に向けて（中之条町の取組）

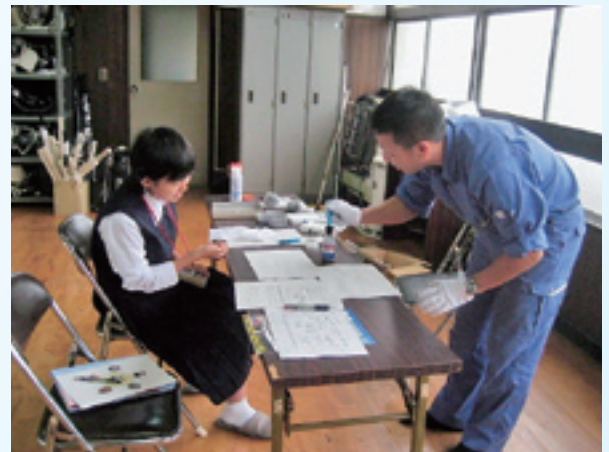
中之条町教育委員会では、中学校における職場体験学習の取組を支援しており、より充実させるために学校支援コーディネーターが、管内の中学校2校と協力し、職場体験学習の計画、受け入れ事業所の開拓・依頼、実施等にかかわっています。

地域を理解しているコーディネーターが、受け入れ事業所を訪問し、活動のねらいや意義、学習内容をきめ細かく伝えることで、事業所の理解と協力を得ることができました。各事業所では、学習のねらいに沿った特別な活動メニューを準備し、とても協力的に子どもたちを受け入れてくれています。



学校とコーディネーターの主な取組

- 中学校職場体験担当教諭とコーディネーターの打合せ
- 職場体験学習の受け入れに向けた事業所訪問
生徒の1次希望事業所や前年度の実施事業所等から、74事業所を個別訪問して依頼
- 2次希望調査結果から、26事業所を追加依頼
- 60事業所の確定、163名の生徒名入りの依頼状の作成
- 依頼状を持参しての正式依頼
- 生徒からの電話によるあいさつと日程等の確認
- 職場体験学習の実施
- 生徒の礼状の作成、事業所へのあいさつ
- 職場体験学習の報告書の作成、配布



職場体験学習を実施する際、コーディネーターがかかわることで、より幅広く地域の協力を得ることができました。また、学校の担当教諭とコーディネーターとの役割分担が明確化されたことで、学校では、担当教諭の事務量が軽減され、事前指導や事後指導を十分行うことができ、より学習を深めることができました。



平成 20 年 3 月に学習指導要領が改訂され、小学校では平成 23 年度から、中学校では平成 24 年度から全面実施となります。新しい学習指導要領では、新たに小学校外国語活動が取り入れられたり、自然体験や職場体験などの体験活動が重視されたりしています。新しい教育内容の充実に向けて、地域と連携して活動の一層の充実を図りましょう。各学校支援地域本部の取組を紹介します。

「外国語活動」「国際理解教育」の充実に向けて (高崎市立吉井西小学校の取組)

吉井西小学校では、小学校で行われる「外国語活動」「国際理解教育」を充実させるために、地域から学習支援ボランティアを募集し、協力をいただいています。



ボランティアの募集方法

- 学校が学校支援センターへ学習支援ボランティアを依頼。
- コーディネーターが、チラシを作成して地域に配布したり、保護者会等で呼びかけたり、地域のネットワークを生かしたりしてボランティアを決定。

事前の打合せ

- 授業者からボランティアの方へ電話でおおまかな内容を依頼した後、1 回目の授業において、児童の実態等を伝えるとともに、授業のねらいや活動内容等についての打合せを行った。
- 2 回目以降は、授業当日、事前に打合せを行った。

コーディネーターのかわり方

- 学校とボランティアの仲介を行った。特に、学校の要望や児童の様子等をボランティアの方にきめ細かく伝えていった。
- ボランティアの方の質問にも丁寧に対応した。



【ボランティア】

準備や心構え、服装などのちょっとしたことも、コーディネーターの方が丁寧に教えてくれるので、不安なく協力することができています。



【担当教諭】

ボランティアの方が心配していることをコーディネーターの方が学校へ伝えてくれるので、授業の中でボランティアの方にどのようにかかわっていただくのかを具体的に整理し、伝えることができました。

ボランティアの方に協力をいただく上での留意点・工夫点

- 授業のねらいを明確にすることや、担任とボランティアの役割を明確にすることを意識して、ボランティアの方に説明した。
- 事前の打合せで、授業のねらいを伝え、活動のポイントを示してお願いしたところ、衣装や持ちもの等工夫して取り組んでいただき、意欲的に協力をいただいた。

【活動の実際】「ハロウィンを知ろう」

- ハロウィンの写真や絵などを用意し、ハロウィンについての説明をボランティアの方から聞くことで、子どもたちの活動への興味・関心が高められ、楽しく学習する雰囲気が出てきた。
- 活動の途中、英語の表現の仕方が分からなくなったとき、子どもたちが表現できるように、絵カードに発音を書いて提示したり、ボランティアの方から発音の仕方を教えていただいたりした。
- 学習した英語表現をボランティアの方と確認することで、英語で会話ができたと自信をもたせることができ、コミュニケーションの楽しさを実感させることができた。



専門的な知識や技能を有する地域のボランティアの方に協力をいただくことで、多様な活動形態を可能にし、コミュニケーションの場を広げることができます。教師が指導の上で悩んだり、迷ったりしたときに、専門的な立場から助言を得ることができ、学習を充実させることができます。

「体験活動」の充実に向けて (沼田市立沼田東小学校の取組)

沼田東小学校では、学校支援センターの機能を高め、授業や学校行事などにおける「体験活動」の充実を図っています。

【自然体験活動】

ねらい

校外学習（遠足や尾瀬学校）におけるボランティアの指導補助により、安全を確保するとともに、自然と触れ合う機会を意図的に創出し、特別活動のねらいの達成を図る。

内容

- 遠足や尾瀬学校などの子どもたちの自然体験を安全に実施するとともに、活動内容を充実させるため、学校の要望に応じて、コーディネーターが地域の方をボランティアとして依頼する。
- 自然や山に詳しいボランティアを依頼するとともに、ボランティアと職員で事前に入念な下見を行うなど、安全の確保はもちろん、遠足等の活動内容の質的な向上を目指している。
- 各学年とも、少人数の班ごとに行動し、ボランティアが各班に付いて、植物等の解説や説明、安全確保に努める。担任及び職員は全体把握をするとともに支援が必要な児童に対応している。



取組 3年：戸神山登山，4年：玉原湿原，ブナ平登山，5年：尾瀬学校

【授業における体験的な活動】

ねらい

ボランティアの指導補助により、授業中における体験的な活動の量的・質的確保や安全の確保

内容

- コーディネーターが、学校の要望に応じたボランティアを募り、授業における体験的な活動の充実を目指している。
- 家庭科の調理実習において、ボランティアによる指導補助によって、体験の質と量が確保されるとともに、安全の確保が図られている。
- 書写（毛筆）において、一人一人の児童の技能に応じた支援がなされている。
- 算数のそろばんや家庭科のミシンの指導において、児童の習熟の程度に応じた支援がなされている。



地域には、様々な資格をもった方や専門的な知識を有した方がいます。沼田東小学校では、先生方の要望に応じて、コーディネーターが積極的に地域をリサーチし、よりふさわしい方をボランティアとして依頼することにより、教育活動の質的な充実を図ることができました。

また、コーディネーターが発行する「学ボラだより」などを通じて、積極的に活動内容を地域に紹介したことにより、「夏休みわくわく活動」でのボランティア希望が増えるなど、企業を含め、地域の方々は学校を支援する意識を高めています。

【夏休みわくわく活動】

ねらい

安全教育・芸術的な活動・野外活動・自然観察・科学体験・キャリア教育・食育等にかかわる体験の場をつくり、学校の教育活動と関連させるとともに、地域の教育力の向上を図る。

内容

- 地域教育コーディネーターが主体となって、企画・運営している夏季休業中の体験活動の講座である。
- 地域の方の専門的な知識・技能や得意なことをもとにした体験活動や、今の子どもたちに体験させたいと思う活動を意図的に仕組んで開催している。
- 子どもたちに身に付けさせたい安全や野外活動に関する体験（サバイバル体験、地震体験）
- 理科学習と関連した自然観察や科学体験（日食観測、プラネタリウム、尾瀬講話）
- 地域の企業や商店主による職業体験（金融の仕組、自動車分解）
- 食育につながる体験（うどん作り、ピザ作り、おやつ作り）
- 芸術的な体験（トルペイント、ビーズストラップ）など



平成 21 年度

地域の教育力の活用状況

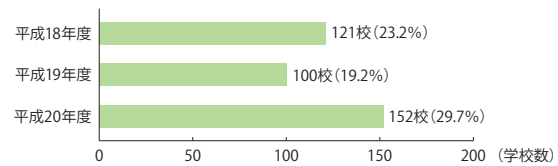
平成 21 年 5 月 1 日現在

(調査対象：市町村立小学校・中学校・特別支援学校 平成 21 年度：計 513 校)

1. 学校支援センター設置状況

	スペースの確保	機能のみ	設置なし
H19.5.1	223 校 (42.9%)	296 校 (56.9%)	1 校 (0.2%)
H20.5.1	201 校 (39.0%)	314 校 (61.0%)	0 校 (0%)
H21.5.1	210 校 (40.9%)	303 校 (59.1%)	0 校 (0%)

2. コーディネーターが位置付いている学校数



3. コーディネーターを探し学校に位置付けた主な方法〈複数回答可〉(152校の回答)

	PTA への働きかけ	地域組織への働きかけ	保護者への広報	地域への広報
平成 20 年度	72 校	52 校	34 校	18 校

4. ボランティアを取り入れて行った活動(平成 20 年度実績 小学校：336 校・中学校 175 校)

【主に授業における活動】

	書写	水泳	楽器演奏	絵画・彫塑	ミシン操作・調理実習	総合的な学習の時間	理科実験
小学校	92 校	60 校	79 校	27 校	156 校	279 校	12 校
中学校	20 校	0 校	31 校	9 校	132 校	89 校	7 校

【主に授業以外における活動】

	あいさつ運動	安全パトロール	図書館整備・読み聞かせ	放課後補充指導	クラブ・部活指導	環境整備	学校行事(遠足・旅行等)
小学校	64 校	258 校	293 校	59 校	17 校	173 校	141 校
中学校	43 校	88 校	26 校	10 校	103 校	85 校	55 校

5. 活動にかかわったボランティアの人数〈のべ人数〉(平成 20 年度実績 小学校：336 校・中学校 175 校)

	主に授業での活動	主に授業以外での活動	総数
小学校	26,792 人	441,363 人	468,155 人
中学校	3,753 人	37,875 人	41,628 人

6. 成果と課題〈複数回答可〉(平成 20 年度実績 小学校：336 校・中学校 175 校)

【成果】

	きめ細かな個別指導	専門的な知識や技術の向上	教師の負担軽減	安全管理の一助	環境整備や環境美化の一助	児童生徒の社会性が育つ	保護者の学校への理解が深まる	保護者や地域の方のつながりが深まる
小学校	158 校	226 校	159 校	266 校	165 校	221 校	233 校	144 校
中学校	52 校	121 校	60 校	89 校	79 校	64 校	83 校	45 校
合計	210 校 (41%)	347 校 (68%)	219 校 (43%)	355 校 (69%)	244 校 (48%)	285 校 (56%)	316 校 (62%)	189 校 (37%)

【課題】

	打合せ時間の確保	日程調整の難しさ	意識のずれ	守秘義務	学校内での役割分担	ボランティアリーダー等の育成	必要なボランティアの方々の確保
小学校	202 校	139 校	57 校	28 校	44 校	207 校	164 校
中学校	73 校	76 校	13 校	10 校	15 校	84 校	79 校
合計	275 校 (54%)	215 校 (42%)	70 校 (14%)	38 校 (7%)	59 校 (12%)	291 校 (57%)	243 校 (48%)